

## PRESS RELEASE

第55回ヴェネチア・ビエンナーレ

日本館展示、タイトル決定及び進捗情報のご案内



la Biennale di Venezia

55. Esposizione  
Internazionale  
d'Arte

Partecipazioni nazionali

### *abstract speaking*

### *- sharing uncertainty and collective acts*

抽象的に話すこと - 不確かなものの共有とコレクティブ・アクト

アーティスト：田中 功起（たなかこおき）

キュレーター：蔵屋 美香（くらやみか）東京国立近代美術館 美術課長

主催：国際交流基金



*a poem written by 5 poets at once (first attempt)*  
2013  
HD video 68 min 30 sec  
Commissioned by The Japan Foundation  
Equipment support: ARTISTS' GUILD

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、来る6月1日から11月24日までイタリアで開催される第55回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館において、田中功起氏（たなかこおき）による映像インスタレーション「abstract speaking - sharing uncertainty and collective acts（抽象的に話すこと - 不確かなものの共有とコレクティブ・アクト）」展を展示します（キュレーター・蔵屋美香氏）本日はその進捗をご案内申し上げます。貴社媒体でのご紹介をどうぞよろしくお願いいたします。

#### 開催概要

総合テーマ：The Encyclopedic Palace

総合ディレクター：マッシミリアーノ・ジョーニ

住所：Padiglione Giapponese, Giardini della Biennale, Castello 1260, 30122 Venezia

日時：2013年6月1日～11月24日 10:00-18:00

主催：国際交流基金

特別助成：公益財団法人石橋財団

協力：大光電機株式会社、NECディスプレイソリューションズ株式会社、ARTISTS' GUILD

<http://www.jpf.go.jp/venezia-biennale/art/j/55/index.html>

#### 本事業に関するお問合せ：

国際交流基金 文化事業部 欧州・中東・アフリカチーム 森多恵、小山田洋子

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1 T.03-5369-6063 F.03-5369-6038 mail: [venezia@jpf.go.jp](mailto:venezia@jpf.go.jp)

#### 取材・広報用画像のお問合せ

国際交流基金（担当 平昌子（TAIRAMASAKOPRESSOFFICE））

mail: [venezia@jpf.go.jp](mailto:venezia@jpf.go.jp) T. 090-1149-1111

## キュレーターステートメント

日本館の展示は、ある種散漫な印象を与えるだろう。枕や懐中電灯、本や壺などがあちこちに置かれ、その間に写真や映像が見え隠れする。丸太の柱やスツールは、第13回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館展示「ここに、建築は、可能か? Architecture. Possible Here?」(2012)で使われたものの部分的な再利用だ。入口近くでは会場管理の係員たちがワーキングテーブルで仕事をしている。こうして、通常なら「作品」として中心的な場を占めるはずの映像や写真は、家具や日用品(映像や写真に登場する実物だ)や係員の間に、等価なものとして紛れ込んでいる。

田中功起は、近年さまざまな方法を用いて、人と人との間に生じる関係性についての作品を制作してきた。それは、1) 特定のグループにあるタスクを課し、その協働作業の様子を映像に収めたものだったり、2) まだ固まりきらないアイデアに基づいて誰かと何かを行い、それを写真やテキストにとどめたものだったりする。

9人の美容師が一人の頭髪を切る、5人の音楽家が1台のピアノで作曲する、5人の詩人が一つの詩を作る、複数の陶芸家が一つの陶器を作る——これらは1)にあたる映像群だ。ここでは、同じ職業の者だけが分かち持つ共通言語を用いて、彼らがぶつかりあったり合意形成したりする過程を見ることができ(ちなみにこの過程を推し進める力となるのは、参加者同士の造形的と言ってよい空間の分節の問題である)。他方2)に属するのは、非常食を食べながら自分の名前について話す、懐中電灯を持って大勢で夜の街を歩くなど、田中が「集団的行為 collective acts」と呼ぶ、まだ行方の定まらない種々の実験である。

2011年3月11日、日本は巨大な地震と津波、原子力発電所の事故を経験した。2年以上が経過した今も事態は収束せず、日本のアーティストはさまざまな形でこの問題に関わり続けている。被災した町に住民が集うための家を建てるプランを示した「ここに、建築は、可能か?」の展示は、その直截的な現れの一つだ。この会場を一部再利用することで、田中は同じ問題を、しかしもう少し抽象的な形で引き継ごうとしている。

たとえば、「a haircut by 9 hairdressers at once (second attempt)」(2010)は震災以前に撮影された。しかし、決定的な経験を経た今の日本の私たちには、これが震災以後の社会を協働作業によって作り出していくことのメタファーに見える。あるいは、本を片手に人々が非常階段を上り下りする映像に、避難の経験を思い出し、反原発の身振り(電力の消費を拒否するという意味において)を感じ取る。こうして田中の設定する一見ささやかなタスクや行為は、観る者の置かれた文脈に応じて読み解かれる内容を変化させる。多くの読みを許容するこの性質ゆえに、田中の作品は、地理的に隔たったヴェネチアの会場において、人々がさらに新しい読みを重ねるためのプラットフォームとなるだろう。いずれにせよ、「GIAPPONE」のサインのとなりに「9478.57km」の文字(福島第一原子力発電所から日本館までの距離を示す)がひそかに付け足された日本館に入った時点で、たとえ意識をしなくとも、さまざまな文脈を背負った無数の観る者同士の関係はすでに始まっている。

田中功起は近年、人と人との間に生じる関係性についての作品を制作している。今回は、1) 特定の職業の人々にあるタスクを課し、その協働作業の様子を映像に収めたもの、2) 複数の人々で何かの行為を行い、それを写真やテキストで記録したもの、の二系統の作品を展示する。5人の音楽家が1台のピアノで作曲する、5人の詩人が一つの詩を作る——これらは1)に当たる映像群だ。他方2)には、非常食を食べながら自分の名前について話すなど、田中が「collective acts」と呼ぶ種々の実験が属する。

2011年3月11日、日本は東日本大震災を経験した。田中の作品は、いずれも反発し、交渉しあう人々の姿を一種の曖昧さをもって示す。この曖昧さゆえに、私たちはそこに様々な読み——例えば震災後の社会を作る協働作業の過程——を重ねる。遠いヴェネチアでも、作品は、震災に関わるもの、そうでないものを問わず、さらに複数の読みを呼び込むためのプラットフォームとなるだろう。

蔵屋美香 東京国立近代美術館美術課長

### 田中功起(たなか・こおき、1975年生まれ、ロサンゼルス在住)

日常のシンプルな行為に潜む複数のコンテキストを視覚化/分節化するため、主に映像や写真、パフォーマンスなどの制作活動を行う。近作では、特殊な状況に直面する人びとが見せる無意識の振る舞いや反応を記録し、私たちが見過ごしている物事の、オルタナティブな側面を示そうとしている。(アーティストのページ: [www.kktnk.com](http://www.kktnk.com))

主な展覧会に森美術館、パレ・ド・トーキョー(パリ)、台北ビエンナーレ、光州ビエンナーレ、アジア・ソサイエティ(ニューヨーク)、横浜トリエンナーレ、ヴィッテ・デ・ヴィズ(ロッテルダム)、イエルバ・ブエナ・センターフォー・ジ・アーツ(サンフランシスコ)「Made in L.A.」(ハマー美術館、ロサンゼルス)などがある。今年6月には「2013 カリフォルニアパシフィックトリエンナーレ」(オレンジカウンティ美術館)に参加予定。

### 蔵屋美香(くらや・みか)

東京国立近代美術館美術課長。千葉大学大学院修了。主な企画に、「ビデオを待ちながら一映像、60年代から今日へ」(2009年、東京国立近代美術館、三輪健仁と共同キュレーション)、「寝るひと・立つひと・もたれるひと」(2009年、同)、「いみありげなしみ」(2010年、同)、「路上」(2011年、同)、「ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945」(2011-12年、同)。主な論考に「麗子はどこにいる?—岸田劉生 1914-1918の肖像画」(『東京国立近代美術館 研究紀要』第14号、2010年)。

## 【広報用写真】

広報用写真をご用意しております。ご使用希望の媒体は、①希望画像の番号、②媒体名、③掲載予定時期を表記の上、[venezia@jpf.go.jp](mailto:venezia@jpf.go.jp) 担当:平(たいら)までご連絡ください。

### ※ご使用時の注意点とお願い

- ・お写真使用の際は画像下部表記のクレジットの掲載を必ずお願いいたします。
- ・トリミング、文字載せは不可、WEB掲載の時はPDF形式でお願いいたします。
- ・二次使用は禁止願います。
- ・使用の際は事実関係の確認の為、記事校正を必ずさせていただきます。
- ・掲載誌又は、掲載記事を担当者までお送り願います。



① *a poem written by 5 poets at once (first attempt)* 2013  
HD video 68 min 30 sec  
Commissioned by The Japan Foundation  
Equipment support: ARTISTS' GUILD



② *a behavioral statement (or an unconscious protest)* 2013  
HD video 8min  
Photo: Takashi Fujikawa  
Filming in cooperation with Korean Cultural Center, Korean Embassy in Japan  
Commissioned by The Japan Foundation  
Equipment support by ARTISTS' GUILD



③ *#4 sharing dreams with others, and then making a collective story* 2013  
Collective acts Photograph and text 730X1100mm  
Created with blanClass, Yokohama  
Supported by The Japan Foundation



④ *#1 swinging a flash light while we walk at night* 2012  
Collective acts Photograph and text 730X1100mm  
Created with blanClass, Yokohama  
Supported by The Japan Foundation



⑤ *painting to the public (open-air)* 2012  
Collective acts Billboard  
Photo: Takashi Fujikawa  
Created with Aoyama Meguro, Tokyo



⑥ *Portrait of the artist*  
Photo: Makiko Nawa